



説教要旨 「この世界のキーストーン」

ルカによる福音書 20章9～19節

ぶどう園の農夫たちは使いの僕を追い返せば利益を独り占めできる、さらには、跡取り息子を殺せば相続財産であるこのぶどう園が自分たちのものになると、思い違いをして大失態を犯しました。その結果、彼らはぶどう園を相続するどころか、主人に殺されてしまうだろう。このたとえ話には、そんな愚かな、大失態を犯そうとしているユダヤ教の指導者たちのことが意識されています。民衆の中に混じっていた律法学者や祭司長たちはこれが自分たちへの当てつけだと気づき、イエスに手を下そうとします。この時は結局、民衆を恐れてなにできませんでしたが、彼らは、神の国の到来を宣べ伝えつつエルサレムにいられたイエス様を受け入れようとせず、何とかして殺そうと思っているのです。この世界のキーストーンとなる石を、この石はいらない、役に立たないと言って捨ててしまうのと同じ愚かな、大失態を彼らは犯そうとしています。神が預言者たちを遣わして語りかけても、彼らはそれに耳を傾けることなく、拒み、侮辱したり殺したりしたのです。そして今、神様が愛する息子であるイエス様を遣わして下さったのに、彼らはその独り子を殺そうとしています。

わたしたちもこのたとえ話の農夫と同じことをしてはいないでしょうか。日々の生活の中で、自らの努力で、働きで、日々の糧を自力で得ている。自分の収穫を奪おうとするものに対しては徹底的に抵抗します。努力したらした分以上に報いを受けようとする。さらには困窮しているひとを捕まえて、お前の努力が足りないからだ。自己責任だ。と切り捨てる。そんな私たちの思いが、この世界をこれほどまでにギスギスしたものにしているのではないのでしょうか。

この世界は、神さまが、植えて、垣を巡らし、搾り場もやぐらも整えて、そうして創りあげられたぶどう園です。私たち人間が、一から作り上げたものではなくて、決してありません。この事実を謙虚に受け止め、分け合い、支え合うところに神の国、神の支配は実現するのです。